（様式２）

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　静岡県　】

学校名【　沼津市立第一小学校　】

１実践テーマ	Ⅲ 及び Ⅴ
２実施対象者 （学年・人数）	【その１】　６年生児童　５９名 【その２】　４５６年生児童　１４４名 特別支援学級　５名
３展開の形式	（１）学校における活動 ①教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（　　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	【その１】 ブラインドマラソン伴走者の堀内規生さんを講師としてのオンライン学習を通し、障害について理解を深め、「効ある人」をより意識して生活できるようになる。 【その２】 パラ陸上選手の村上清加さんを講師としてのオンライン学習を通し、障害について理解を深め、「効ある人」をより意識して生活できるようになる。
５　取組内容	【その１】 １１月１１日（水）　５．６校時 体育館で、リモートによる堀内さんの講話や実技を実施。 ↓体育館の大型投影機を使っての講話

↓リモートでは挙手により意思を伝達

↓早稲田大学岡田先生による説明

↓堀内さんの指導によるアイマスクを使った体験学習

↓リモートで堀内さんに質問

↓本校HPの記事

オリンピック・パラリンピック推進教育取組

6年生がリオパラリンピックマラソン銅メダルに輝いた視覚障害の仲正をしていらっしゃる堀内規生さんのオンライン講演・実技を行いました。相手の目になること、目の不自由な方が生活することの難しさを実感しました。

【その2】

１１月１９日（木）　５．６校時

　体育館と視聴覚室、理科室の３会場で、リモートによる村上選手の講話を実施。

↓視聴覚室での事前学習

↓理科室での事前学習

↓体育館でのリモートによる村上選手の講話

↓リモートで村上選手に質問

↓本校HPの記事

オリンピック・パラリンピック教育取組第2弾

オリンピック・パラリンピック教育取組第2弾として、パラリンピックなど世界大会に出場経験があり、今も東京パラリンピック出場目指して頑張されている村上清隆選手のオンライン学習を受けました。４～6年生の子供たちが３会場に分かれ、村上選手の明るさと前向きさに引き込まれていました。講演後、たくさんの子が進んで村上選手に質問を投げかけていました。

６　主な成果	昨年度、ボッチャや車いすバスケットボールの代表選手との交流を通し、障害やパラリンピックについて学習した。その経験をもとに、ブラインドマラソン選手のガイドランナーである堀内さんと、パラ陸上の村上選手の講話や実技を通し、障害やパラリンピックへの理解を深めていた。 【その１】 前半は、堀内さんがガイドランナーになるまでの道のりや、ガイドランナーと選手との関係など、新しいことをたくさん知り、児童は一同に驚いていた。後半は、堀内さんの指導のもと、アイマスクを用いて、視界を遮った動きをしたり、目が不自由田な人を導く体験をしたりした。全てが児童にとってあまり経験がない、新鮮な学習であった。 ＜児童の感想＞ ・ガイドランナーやパラリンピックのことがいろいろ知れてよかった。目が見えない人の感覚を体験して少し怖かったが、それでもマラソンをする人はすごいなと思った。（６年女子） ・パラリンピックにちょっとしか興味がなかったけれど、改めて興味をもてた。堀内さんの話を聞いて、僕も困っている人を助けたいと思った。（６年男子） ・伴走者はただ走るだけだと思ったけれど、生活面でもマラソンでも重要な役割だと感じました。目が見えない体験では人とぶつかってしまったので、伴走はとても重要だと思いました。なによりも、堀内さんと道下選手が一緒に走っているところを見たいなと思いました。（６年女子） 【その２】 約 150 名の児童が３会場に分かれ、村上選手の話を聞いたり、質問をしたりした。突然足を失う事故から始まったこれまでの道のりや、義足を笑顔で脱着する姿など、村上選手の前向きな生き方を児童は十分に理解していた。 ＜児童の感想＞ ・暗い気持ちだけではだめだという気持ちを持つところから素晴らしいと思いました。また、仲間といっしょに挑戦したいというところで、一人ではできないことでも周りの人といっしょにやることで、できることがあると知れて良かったです。（６年女子） ・自分はあきっぽく、難しくなったら途中であきらめてしまうような人間で、入院中の村上選手のようでした。それに自分が気付いてもあきらめてしまうのですが、ぼくも村上選手のようにあきらめず、これまでの自分を反省し、大きな目標を持って夢を目指します。（６年男子） ・事故から今まで、辛かったこともうれしかったことも全て話してくれて、良い体験になった。義足についてくわしく知れたし、走り幅跳びや１００mの記録もすごかった。パラ陸上に興味が出てきた。（６年女子）

【児童アンケートの結果】（5，6年生）

第１回は１０月初旬実施、第２回は１１月下旬実施。

①パラリンピックに興味がありますか。

	第1回	第2回	差
とてもそう思う	１７％	２７％	△１０％
そう思う	５０％	５６％	△　６％
あまりそう思わない	２８％	１５％	▼１３％
そう思わない	５％	２％	▼　３％

②将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。

	第1回	第2回	差
とてもそう思う	１９％	２３％	△　４％
そう思う	３４％	３８％	△　４％
あまりそう思わない	３５％	３６％	△　１％
そう思わない	１２％	３％	▼　９％

①の結果から、リモートでの交流を通してパラリンピックへの興味や関心が高くなったと考えられる。②の結果から、今回の学習を通してパラリンピックへの理解が深まったと考えられる。

７実践において工夫した点（事業の特色）

コロナ禍の影響があり、オンライン学習を実践した。

昨年までの学習を生かすため、早稲田大学の岡田先生にご協力いただき、児童の実態に合った講師の人選に時間をかけた。その結果、学習効果が上がり、児童の意識向上につながった。

GIGA スクール構想による設備工事が途中だったので、体育館を中心に会場を設定した。リモートがスムーズに実施できるよう、情報機器の設営に細心の注意を払った。

事前に報道投げ込みを実施したところ、静岡新聞と地元紙（沼津朝日）に掲載された。特に、沼津朝日には一面で特集を組んでいただき、取り組みのアピールができた。

↓R2.11.12 静岡新聞

視覚障害 理解深める

ガイドランナー 堀内さん講師に学習会

沼津第一小

東京五輪パラ

沼津市立第一小は11日、視覚障害のマラソン選手のガイドランナーを務める堀内規生さんを講師に迎えた学習会をオンラインで開いた。オリンピック・パラリンピック教育推進校として企画し、6年生約60人が視覚障害や伴走者について体験を通じて理解を深めた。

2016年のリオデジャネイロパラリンピックで道下美里選手の伴走者を務め、銀メダルを獲得した経験を持つ堀内さんが、ガイドランナーの役割を解説した。コース誘導や給水から、食事のサポートまで多岐にわたり、「選手の目の代わりになる」と紹介した。

子どもたちはアイマスクを着用して足踏みなどを行い、目が見えないと自分の体が予想通りに動かないことを体感した。ガイド役にも臨み、2人一組で歩いて誘導の難しさを学んだ。中隠居冬磨くん(11)は「誰かがいればできることもあると学んだ。困っている人がいたら助けたい」と話した。

（東部総局・大石真聖）

ガイドランナーの役割を体験する児童 ＝沼津市立第一小

	↓R2.12.1 沼津朝日新聞 パラ競技への理解深める 一小 競技者ら講師にオンライン授業 視覚障害走者の伴走者 義足の女性幅跳び選手
８主な課題等	•GIGA スクール構想による設備工事が整い、無線接続可能な大型提示機が各教室に配備されると、オンライン学習がよりスムーズに進むと思われる。 •昨年度に引き続き、早稲田大学の岡田先生に多大なるご支援をいただき、計画的に活動できた。他校が本校と同じ実践をしようとすると、講師捜しを含め難しいかもしれない。 •コロナ禍で授業時間が減った中での計画だったので、各教科や総合的な学習の時間の他の題材とのバランスに気を配った。
９来年度以降の実施予定	• オリパラ教育実施校としての取り組みを継続する予定。 • コロナ禍による影響を考え、リモート等 ICT による学習が主になると思われる。 •静岡県や沼津市等地元からの要請には可能な限り応じ、児童の学習をよりよいものにしていきたい。